

2020年度（第17期）事業報告

（2020年4月1日から2021年3月31日まで）

特定非営利活動法人アーシャイコールアジアの農民と歩む会

報告者 プロジェクト統括責任者 三浦 照男

はじめに

インド全土でコロナ感染拡大が収まらず、2020年3月20日より施行されたロックダウンは半年以上に及んだ。そのため、いくつかの計画は延期、活動スケジュール修正を余儀なくされた。特に、村での集会や訪問、村からボランティアやスタッフの通勤に多大な規制があったことで10月下旬まで活動に大きな支障をきたした。

民間団体からの助成金に加え、外務省日本NGO連携無償資金協力の資金が得られて、事業の中核を成す農村女性の人材育成と収入向上、大豆栽培と加工事業、モリンガ関連事業、縫製関連事業を実施し、さらに、インドと日本で製品の販売拡大と市場開拓を進めることができた。

このように危機的な状況があった一方で、資金的拡充もあり、全体を鑑みれば、事業目標や活動内容を大きく変更することなく遂行できた。国内外の支援者、協力者に深く感謝を申し上げたい。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- アラハバード有機農業組合（AOAC）は、コロナ禍で物流が滞り、取引先のレストランやホテルが休業し、在留日本人の多くが帰国したため、販売量は3分の1程度に落ち込んだ。この状況を打開するため、AOACスタッフと連携し、個人消費者や地元消費者の発掘を行った。組合に参加する農家も自主的に市街地で野菜の直接販売を行った。
- 農村女性によるNGO アーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）の実施するモリンガ、大豆および野菜の栽培とそれらの加工、販売の協力・支援を行った。
- 農村女性による生産グループ アーシャ ビカス シャクティ（AVS）が製作する手工芸品のデザインおよび縫製技術の指導、新製品の開発、販売促進を支援した。

2. 人材育成支援事業

2-1. 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

インド、ミャンマー、日本から学生の受け入れ、短期研修コースともに、休止した。

2-2. 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

アーシャ学校のマエダ校の児童への奨学金助成、校舎の修繕を支援したが、特別学級は休止した。

2-3. 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

アジア生協協力基金「北インド農村女性の自立支援のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業」の2年目として、縫製技術の向上と上質な手工芸品の開発に取り組んだ。コロナの影響を受けて専門家の派遣は見送ったが、オンライン研修により商品バリエーションを増やすことができた。また、農村の基礎裁縫クラスの研修にマスク縫製技術の習得を組み入れ、研修生が緊急支援事業で配布するマスクを製作した。

2-4. 農村保健衛生改善支援事業

味の素ファンデーション「北インドと日本をつなぐ食を通じた栄養改善プロジェクト」の2年目として、農村女性によるモリンガ栽培、モリンガ粉末の加工による収入向上と組織強化、住民の栄養向上活動を促進した。ロックダウン期間中、シニア農村保健ボランティア(SVHV)や当会スタッフが5か村の小規模生産グループ(SPG)への指導巡回が実施できず、獣害も続出したことで、SPGのモリンガ生葉の収穫量は少なかった。マキノスクールの農場では計画通りの収穫があり、モリンガ乾燥粉末の加工を行った。1月、農村でモリンガ栽培、栄養改善と健康料理の紹介・試食を行うセミナーを開催した。3月には幼児の身体測定を実施し、栄養改善の経過を調査した。

2-5. 農村女性所得創出・地位向上支援事業

外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業「大豆の栽培・加工を通じた農村女性の所得創出 - 栄養改善と地位の向上を目指して -」を2020年3月より開始したが、その半月後にロックダウン令が施行され、10月まで事業対象村での活動、特に、集会や訪問は困難になった。ロックダウン期間中、マキノスクールの施設や圃場において農村普及ボランティア(VEV)のために研修、大豆栽培の実習を行った。一方、小規模生産者グループ(SPG)による大豆栽培は遅れ、1月下旬から9か村の15SPGにおいて開始した。マキノスクールの圃場で収穫した大豆を用いて豆腐を作り、インド人にも受け入れられる豆腐料理の開発を行い、9か村で豆腐料理の紹介・試食を行うセミナーを実施した。また、村の食堂の料理人に豆腐料理を紹介したことで、結婚式で豆腐が使われるようになった。

3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1. ワークキャンプ・スタディツアー、訪問者受入

インターンシップ研修プログラムを3月に計画したが、コロナ感染拡大が収まらず中止した。
12月、インド・ビハール州で農村の自立支援に取り組む日本のNGO関係者と事業地の農民を受け入れ、農村見学、農民同士の交流会を実施した。

3-2. 会報の発行

アーシャの活動、およびマキノスクールのプロジェクトの活動を会員、支援者に理解していただくために、年3回(4月、8月、12月)、会報『アーシャ』を発行した。

3-3. ホームページ等での広報

アーシャの活動内容を広く一般の方々に知っていただくため、ホームページの更新を行った。

3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

代表理事が講師となり、栃木県内でセミナー、講演会を3回、栃木県外の講演会ではオンライン会議で1回実施した。

3-5. 次期事業形成調査

日本における技能実習を促進するため、来日前の優良人材の供給体制強化、来日中の実習生との共生社会実現、帰国後の実習生の生計向上支援を組み合わせた取り組みについて検討した。

4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

インドのコロナ感染が拡大する中で最も弱い立場にある貧しい農村の住民、その中でも子どもや女性を守るため、「マスクを届ける募金」を実施した。当会が支援する農村の基礎裁縫教室において研修を修了した農村女性がマスクを製作し、アーシャ学校の生徒や先生、事業地10か村の低所得の家庭の子どもや女性にマスクを配布した。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ・販売事業

インドでは、コロナ感染拡大により在留日本人が一時帰国し、観光客もなく、帰国者向けに開発した土産用の手工芸品等の需要が突然変化した。主な取引先の閉店、運送手段が途絶える等、多くの要因が重なり売上は減少した。12月以降、ハリアナ州グルガオンのイベントやプラヤグラージ市内の朝市などでAOACやAVSSの販売支援を行うとともに、当会の活動の認知度向上に努めた。

日本では、緊急事態宣言の発出により手工芸品の販売店は営業を自粛し、出店販売するイベントやバザーも中止となった。さらに、インドのロックダウンの影響を受けて国際郵便が休止となり、10月まで商品が届かない事態となった。その中で、栃木県で開催されるイベントなどで手工芸品の展示販売を続けるとともに、当会の活動の認知度向上に努めた。10月以降、国際郵便は徐々に回復し、手工芸品やモリンガ粉末を輸入できるようになり、東京、千葉、岐阜、栃木の販売店へ商品を提供した。

2. 食品加工事業

インドから輸入したモリンガ粉末を小分けしてシーリングし、ラベルを貼付する加工作業を行った。また、モリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の粉末をブレンドしたモリンガ塩の加工作業を行った。

3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

栃木県、神奈川県において北インドの活動風景の写真の展示会を行った。

IV. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民30万人	94
2.人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民100人	34
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村児童100人	13
	③裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	7名	農村女性60万人	70
	④農村保健衛生・健康栄養改善支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	7名	農村住民60万人	3,017
	⑤農村女性所得創出・地位向上支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	7名	農村住民60万人	8,991
3.事業を推進するための調査研究及び啓発・広報事業	①インターンシップ研修及びワークショップ・研修ツアー・訪問者受入	随時	インド	3名	日本、インド20人	47
	②会報の発行・広報・セミナー	年3回	日本、インド	6名	日本、インド1000人	85
	③次期事業形成調査	随時	日本、インド	2名	日本、インド	0
4.災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	8月～12月	インド	6名	農村住民1000人	60
						12,411

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.バザー・チャリティ・販売事業	バザー等出店販売、委託・買取販売、通信販売、市場調査	随時	日本、インド	6名	日本、インド1000人	1,072
2.食品加工事業	モリンガパウダー、モリンガ塩、ヒマラヤ岩塩の商品加工	随時	日本	4名	日本200人	5
3.演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画・写真展	随時	日本	4名	日本1000人	0
						1,077